

## 学習指導案（現代社会）

実施日時：令和4年11月18日（金）第3校時

対象生徒：3年3組（総合ビジネス科）

（男子9名 女子20名 計29名）

指導者：船木 鉄平

使用教室：3年3組教室

使用教科書：『最新 現代社会 新訂版』

### 1 単元

第2部 現代の社会と人間 第3章 日本の政治機構と政治参加  
「政党政治の現状と課題」

### 2 教材観

平成27年の公職選挙法一部改正により、翌年から選挙権を有する者の年齢が満18歳以上に引き下げられ、高等学校において主権者教育の推進が求められている<sup>1</sup>。一方、国政選挙、地方選挙とも投票率の低下が問題となっており、衆議院議員総選挙、参議院議員通常選挙の投票率はおおよそ5割台、統一地方選挙は4割台となっている<sup>2</sup>。令和4年7月の「第26回参議院議員選挙」の年齢別投票者数に関する調査結果（鹿児島県選挙管理委員会の独自調査）によれば、18～19歳の投票率は28.51%と調査対象となった年齢層で最低であった<sup>3</sup>。

低投票率の要因は様々で、一概に指摘できないが、これまでの授業の状況から、経済政策に対する理解の不足や、そもそも投票に際して大きなウェイトを占める「政党」の特色や政策について理解できていないと感じることが多い。本時の学習を通して、代表的な経済政策とその特徴を捉えることで、明確な違いが分かりにくい各政党の主張の大枠を掴むことで、来るべき選挙の投票行動のヒントとすることができるのではないかと考える。

### 3 本時の目標

前時の学習「日本の財政の課題」では、「税に関する法律と税の使いみち（予算）は、国民の代表である議員によって、国会や地方議会で決定される」ことを学習し、議員を選ぶのは主権者たる自分たち自身であることを確認した。財政・租税を通じて学習する内容は、経済全般に関係するものである<sup>4</sup>。自分たちが納税者であり、又その受益者であることを確認することは、現代社会における諸課題を、自らの課題として受け止め、主体的に考察するきっかけとなる。

一方、代議制における「投票」は、政党・代表者を通じて、自らの政治意思を信託する行為であるため、その意思を十分に政治に反映させることは難しい場合がある。

限られた条件の中で、かつ正解が一つに定められない問いを設定し、他者との協議や討論を通じて、既習事項を活かしながら、生徒自身が自らの最適解を導き出そうとする学習活動の成果と課題を考察する。なお、活動の中では以下の視点（1）～（5）を理解させる<sup>5</sup>。

- （1）国の支出のあり方（どのような公共サービスを受けるのか）を決定するのは国民である。
- （2）（1）の有り様は国民の代表者である議員が議会を通じて決定する。
- （3）公平・公正な税負担と税の使い道には多様な意見が存在し、正解を1つに定めることは困難である。
- （4）自立した主体として行動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身につけることが大切である。
- （5）生涯の生活設計、自助、共助及び公助の重要性など、他教科との関連について留意<sup>6</sup>し、自立した主体として行動するために必要な情報は、日常生活の中にあふれていることを確認する。

#### 4 単元の目標

- (1) 選挙年齢が 18 歳以上であることを踏まえ、選挙の意義や、政治的無関心により生じる課題について理解する。(知識・技能)
- (2) 選挙の仕組、政党の役割、世論の形成について、様々な情報手段を活用して、考察、構想し、表現している。(思考・判断・表現)
- (3) 政治参加と公正な世論形成について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(主体的に学習に取り組む態度)

#### 5 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
現代日本の政治・経済に関する諸資料から、課題の解決に向けて考察、構想する際に必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取る技能を身に付けている。	政党政治や選挙などの観点から、望ましい政治の在り方及び主権者としての政治の在り方について多面的・多角的に考察、構想して表現している。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

#### 6 単元の指導と評価の計画

「○…評定に用いる評価」「●…学習改善につながる評価」

時	学 習 活 動	評価の観点			評 価 基 準 等
		知	思	態	
第 1 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事柄や課題を理解する。</li> <li>・市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察する。</li> </ul>	●	○	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自由放任主義的な経済政策の転換点となった「世界恐慌」と、対策として提唱された「ケインズ理論」を理解している。(知技)</li> <li>・「大きな政府」は、恐慌への対応策として採用された反面、財政赤字の拡大・行政機構の肥大化という新たな問題を引き起こした点とを併せて考察している。(思判表)</li> <li>・市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。(態度)</li> </ul>
第 2 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政の三つの働き、財政のしくみ、租税の分類と税制の原則、国債と財政問題、社会保障の意義と制度、少子高齢社会における社会保障の課題などについて理解を深める。</li> <li>・教科書の資料に加え、インターネット等を活用し、必要な情報を収集し、読み取り、まとめる。</li> </ul>	●	●	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・財政の働き・仕組、租税の分類と税制の原則、国債と財政問題、社会保障の意義と制度、少子高齢社会における社会保障の課題などについて、主体的に追究している。(態度)</li> </ul>
本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大きな政府」と「小さな政府」の論点を整理した上で、グループでの協議や討論を行う。</li> <li>・各政党の主張を整理し、政策比較のための座標軸に位置づけを行う。</li> <li>・整理した情報をもとに模擬投票を行う。</li> </ul>	○	●	○	<ul style="list-style-type: none"> <li>・選挙の意義や政治的無関心の問題について理解している。(知技)</li> <li>・選挙の仕組、政党の役割、世論の形成について様々な情報手段を活用して考察・構想し、表現している。(思判表)</li> <li>・政党政治の課題を理解し、将来の主権者として、民主政治の在り方について考察している。(態度)</li> </ul>

7 本時の実際

学習過程	学習内容・資料等	指導上の留意点及び評価規準等	評価
課題把握 (5分)	<p>【前時の復習】 「税は公共サービスの対価で有り、税の使い道は、国民の代表者である議員によって決定される。その議員は、有権者であり、納税者である私達が選挙を通じて選ぶものである」<sup>7</sup> (税の使いみちを監視する (関心を持つ) ことも納税者として重要)</p> <p>【学習課題】選挙では何を基準に投票したら良いのだろうか？</p>	<p>投票の基準としては様々な意見が考えられるが、本時は「政策」に焦点を当て授業を展開する。</p>	<p>・前時の成果物</p>
課題追求 (25分)	<p>【学習活動1】自分たちの将来は、北欧型社会を目指すのか？あるいはアメリカ型を指向するのか？また、そのいずれでもないのか？内容を整理し、自分の意見を代弁する政党を見つけよう！</p> <p>主要9政党の公約を多角的に検証した「#くらべてえらぶ 参院選 2022 マニフェスト比較」<sup>8</sup>を教材に自分の意見を代弁する政党を探す。 <a href="http://maniken.jp/pdf/2022MANIFESTOtable.pdf">http://maniken.jp/pdf/2022MANIFESTOtable.pdf</a></p>	<p>・政策の柱として、自分は「大きな政府」「小さな政府」のどちら側に立つのかを明らかにした上で、政策比較を行うことに留意する。</p> <p>・各政党と自分(個人)の意見を一致させることは、困難な場合もあることを体感させる。</p>	<p>・前時の成果物 ・タブレット端末を用いての情報収集及び解答の送信</p>
考察・構想	<p>【学習活動2】 政策比較のための座標軸に各政党を位置付けてみよう。</p> <p>・各象限(第一象限から第四象限)にあたる政治体制を予想する。—① 第一象限 →新自由主義～市場原理主義 第二象限→社会民主主義 第三象限→社会主義(共産主義) 第四象限→ファシズム</p> <p>・①の成果を基に、その分類から、日本の各政党を当てはめる—② ・座標軸の解答例を自分の予想と比較する。</p> <p>・座標軸の解答例(村上弘 立命館大教授のモデル<sup>9,10</sup>)を示し、各政党が包摂する多様性・意見の広さを確認すると同時に、政党内においても意見の一致は容易ではなく、異なる政党間でも意見の重なり(重複)があることを確認する。</p>	<p>・縦軸の「独裁政治」と「リベラリズム」は二項対立で理解しやすい概念であり、生徒がイメージできるよう説明する。</p> <p>・これまでの学習内容を参考に、生徒自身が自分の意見を整理できるよう留意する。</p> <p>●政党間の意見の重複が政策論争を分かりにくくさせる原因となっていることについて理解している。 (思考・判断・表現)</p>	<p>タブレット端末を用いて解答送信(送信された解答)</p>

課題解決 (10分)	まとめ	<p><b>【模擬投票】</b> 「それでは、どの政党に投票すれば、<u>あなたの意見は政治に反映されると考えますか？</u>（秘密選挙）</p> <p>政党公約・所属議員にも意見の幅があり、また、各政党の意見に重複があるなど、投票行動は多面的に判断せざるを得ないが、現時点における最適解を生徒自身の手での模擬投票を行う。</p> <p>○政策のどの部分（例～福祉・外交・防衛・経済政策・教育等）に重点を置きたいか明らかにし、これまでの学習内容を踏まえることで、「全体的に、あるいは何となく」ではなく、主体的に投票しようとしている。 (主体的に学習に取り組む態度)</p>	投票に向き合う態度
新たな課題 (10分)	振り返り	<p><b>【学習課題の解決策】</b> 選挙で一票を投じる際は、政策、実績、資質などを多面的に検討する必要がある。大切なことは自分で考え判断する力を養うことである。</p> <p>・民主政治は多数決に基づいて行われることが基本であるが、その際には少数者の権利や意見の尊重が必要であること、主権者として正確な情報を基に行動することが肝要であることを確認する。</p> <p>・教科書 72 頁（民主政治の仕組みと課題－既習事項）を振り返り、J・S・ミルの主張から、民主主義の在り方について考察させる。 ○主権者教育を通して、民主政治の難しさ・煩雑さを体感するとともに、不断の努力の必要性を理解している。 (知識・技能)</p> <p><b>【感想の記入】</b> 今日の学習の感想や大切だと思った点をまとめよう。</p>	生徒の感想

## 8 本時の評価

### (1) 【主体的に学習に取り組む態度】

- ・ インターネットによる情報収集を積極的に行っているか。
- ・ 正確な情報を得るための工夫を行っているか。

### (2) 【思考・判断・表現】

- ・ 発問に対して、自分の言葉を用いて内容を伝えることが出来ているか。
- ・ 学習成果を現代の政治的課題と結び付け、現代の社会的事象を考察することができているか。
- ・ 発表に際して、自分の意見や考えを他者に分かり易く伝える工夫がなされているか。

### 【資料】

- ・ 総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身に付けるために』（活用のための指導資料・生徒用）
- ・ 村上弘「日本政治と維新の会」『立命館法学』2012年4号。
- ・ 村上弘「職業としての政治学教育－民主主義『リベラル』、アクティブラーニング」2020年。

## 9 「研究授業を終えて」

税金を多く収めることを喜ぶ人は少ないだろう。できることならば負担は少ない方が良い。生徒も同じ思いであろう。しかし、コロナ過による大幅な行動制限と、それに伴う経済活動の収縮を目にしてきた彼らは、政策によって一人当たり 10 万円の給付を得たり、旅行支援事業や飲食店への支援金を知り、その恩恵も受けた。同時に、「公平な給付とはどのようなものだろう？」と考えたことだろう。

税は公共サービスの対価でもある。行政に欲する支援は多様だが、財源が手当てされていなければ、財政は持続可能なものとなりえない。前時の学習「日本の『財政』の課題」から見えてきた負担と受益の在り方を考えることは、理想とする社会制度や政策を有権者が選挙を通して議会で決定する主権者教育の視点へとつながる。

授業ではタブレット端末を用い、自分の願いや意見を代弁する政党を見つけるために、「大きな政府」と「小さな政府」の論争を出発点に、情報の収集や整理を行った。現代社会の研究授業としての取り組みではあったが、各政党の政策ベクトルを座標軸に落とし込んだり（数的処理）、他者との対話を通じて、自分以外にも多様な意見が存在し、その多様な意見の背景に各人それぞれが置かれている状況（家庭科—生涯の生活設計、自助、共助、ライフスタイルと環境など）が異なることを知ったであろう。

「教科横断型授業開発」をテーマに取り組んだ本事業では、これまでチョークアンドトークに陥りがちであった自分の授業スタイルを改善する手段として、意識的に ICT の活用に努めた。ロイロノートに学習活動の状況や成果物の整理を行わせたことで、生徒の活動の履歴と課題が可視化され、客観的評価がより容易になった。また、授業で発表を苦手とする生徒も、学習課題と向き合い、自分の考えやその過程を自分のペースでネットワーク上に残していった。今後の課題としては、「テーマ学習」向けに使用しているタブレット授業を、通常の授業により広げていく取組だと考える。

---

1 総務省・文部科学省『私たちが拓く日本の未来 有権者として求められる力を身に付けるために』（活用のための指導資料）6 頁。特に、「現実の具体的政治事象を取り扱うことによる政治的教養の育成」（留意点 1）「違法な選挙運動を行うことがないような選挙制度の理解」（留意点 2）点が求められている。（活用のための指導資料）6 頁。

2 総務省ホームページ「国政選挙における年代別投票率について」  
[https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo\\_s/news/sonota/nendaibetu/](https://www.soumu.go.jp/senkyo/senkyo_s/news/sonota/nendaibetu/)

なお、令和元年 7 月に行われた第 25 回参議院議員通常選挙では、10 歳代が 32.28%、20 歳代が 30.96%、30 歳代が 38.78%。（全年代を通じた投票率は 48.80%）いずれの選挙でも他の年代と比べて、若年層の投票率は低い水準にとどまっていることから、総務省では、特に若年層への選挙啓発や主権者教育に取り組むとともに、関係機関等と緊密な連携を図り、投票率の向上に努めることとしている。

3 鹿児島県公式ホームページ 第 26 回参議院議員通常選挙（選挙区）における年齢別投票者数に関する調査結果 [zhCZ221011\\_133306.xdw \(pref.kagoshima.jp\)](http://zhCZ221011_133306.xdw(pref.kagoshima.jp))

4 文部科学省『高等学校指導要領解説公民編』平成 31 年 5 月、66 頁。指導要領解説内容の取扱いで「『財政及び租税の役割、少子高齢化社会における社会保障の充実・安定化』については関連させて取り扱い、国際比較の観点から我が国の財政の現状や少子高齢化社会など、現代社会の特色を踏まえて財政の持続可能性と関連付けて扱うこと」と示されている。

5 国税庁「税の学習コーナー」応用編 <https://www.nta.go.jp/taxes/kids/oyo/page09.htm> (1) (2) (3)

6 文部科学省前掲書、80 頁。教科間の連携については「中学校社会科及び特別の教科である道徳、高等学校公民科に属する他の科目、この章に示す地理歴史科、家庭科及び情報科並びに特別活動などとの関連を図るとともに、項目相互の関連に留意しながら、全体としてのまとまりを工夫し、特定の事項だけに指導が偏らないようにすること」と示されている。また、「公共」を高等学校道徳教育の一端を担うものとして、その重要性を指摘している。

7 国税庁 前掲 HP 学習・応用編「なぜ税を納めなければならないのでしょうか（まとめ）」

8 早稲田大学マニフェスト研究所「2022 参院選マニフェスト比較表（全部）」（maniken.jp）

<http://maniken.jp/pdf/2022MANIFESTOtable.pdf>（2022 年 6 月 27 日 06 時 00 分東京新聞掲載）

9 村上 弘「日本政治と『維新の会』一道州制、首相公選、国会縮減の構想を考える」立命館法学 2012 年 4 号。

[3031372097A796BD8AD996408A77323031322D34208CA48B86836D815B8367203638392D37363428323938392D33303634292091BA8FE38E812E6D6364](http://3031372097A796BD8AD996408A77323031322D34208CA48B86836D815B8367203638392D37363428323938392D33303634292091BA8FE38E812E6D6364) (ritsumei.ac.jp)

10 村上 弘「職業としての政治学教育—民主主義『リベラル』、アクティブラーニング」2020 年。